やってみたい！を カタチにしよう

みんなの居場所　まちライブラリー＠千歳タウンプラザ

＜サポーター会議＞
２０１９年2月２６日（火）
（昼の部）１４：００～１５：３０
　　参加者１２名
（夜の部）１８：００～１９：３０
　　参加者８名

まちライブラリー@千歳タウンプラザでは、毎月１回「サポーター会議」を開催しています。その際に必ず行っているのは、自己紹介+本紹介です。普段、本を読まなくても大丈夫！昔好きだった本、最近気になっている本、写真集・絵本・漫画でもなんでもいいのです。ちょっとでも本が身近に感じられるひと時を共有できたら嬉しいです。今回は、まちライブラリーが通年で行っている取り組み紹介と参加者からの新しい提案や相談のひと時となりました。

本紹介は、ここが面白い！

昼の部では、宗教・埋葬の話に花が咲きました！最後には紹介した本の交換も。

■陸）キリスト教会の会員向けの便りにも読書感想として紹介しているのですが、『現代という時代の気質』（エリック　ホッファー）という古い本なのですが、この方は教育を受ける機会がなく、その日暮らしをしながらも哲学的な本を書いた人です。長い時を経ても素晴らしい言葉はいいものだということで紹介しました。
■礒）目がみえなくなったが、１０代で視力がもどって哲学者になった奇跡の人ですね。

■礒）『縄文人の死生観』（山田　康弘）を飛行機の中で読みました。考古学者がお墓を調査している話ですが、お墓かにはその時代の文化のすべてが詰まっているものなのです。縄文人は現代と近い人間観を持っていたようです。例えば埋葬する文化は人間のみ。深い宗教観を持ちつつ１万年かけて進化してきたのですね。
　読んでみたきっかけは、最近、死んだらどうするか、ということを考えるようになりました。樹木葬など色々ありますが、お墓観は時代がつくるものですね。インドでは５歳以下は川に流すそうです。悲しいようですが、それぞれの宗教観で埋葬の仕方があるようです。

■石）千歳もキウス周堤墓が世界遺産の候補になっていましたよね。千歳には美々貝塚もありますから、
■礒）貝塚はゴミ捨て場なので、なぜそんなところに土器も亡くなった人も一緒に捨てるのかと思ってしまいますが、全てのものは自然に戻して再生させるという宗教観みたいですね。
■陸）沖縄の考え方は、代々自分の敷地の中に立派なお墓を作りますよね。恋人ができたら、家族と一緒にお墓のことについて話すそうです。永遠という考えから、コンクリートでお墓も作るんですよね。沖縄に行く機会があればぜひ見てほしいです。
■ひ）時間がゆっくり流れていいですね。年齢を重ねると沖縄文化にとても興味がわくようになりました。
■巳）今日持ってきた山菜図鑑を見ながら、山菜をとっているのですが、近くに土器もあるみたいです。

地震の話

■木）地震がありましたね。避難所は市の職員だけでは間に合わないので、皆さんの日ごろからの備えもとても大切だと思います。

市役所で、街を元気にしたいとリノベーション事業を企画しています。２月２８日に仙台で活躍している方をお招きして「行政が変われば、街が変わる」ということを講演されています。仙台では、建物の改造ではなく、公園や公共空間・道路・空きスペースを使ってのリノベーションをされています。千歳にも参考になるようなお話なので、これからのまちづくりを考えていきたいと思っています。

■田）地震ですが、８階に住んでいた友人は部屋の中はめちゃくちゃでエレベーターも止まって大変だったようです。最近気になる本は、樹木希林さんが亡くなってからの本が本屋では売れているようです。

■古）「千歳の幸せ図鑑 level４」（防災マップ）が発行されています。今回も皆さんに見ていただきたいと思い、配布しました。

紹介する本は、『砂時計』（北十）の創刊号です。北大の文芸に関わる人が集まってつくった同人誌です。本に関わる人が集まるイベントで購入しました。千歳市民文芸もまちライブラリーに寄贈されていて、文芸に関わる機会が増えて興味がわいています。

■笹）最近本は読んでいないですが、雪の時期に外の作業（農作業）ができない話を聞いて思い出したのが『バラの図鑑』の本です。私がまちライブラリーにはじめてに寄贈した本です。メッセージカードを見てみると、書いてくれている人がいて、嬉しかったです。３月２日、１１日にバラの講習会のイベントを開催する予定です。

■久）『雪わたり』（宮沢賢治）千歳は３年目ですが、北海道に来て雪の上を踏む足音が本当にキックキックというのに感動したことをこの本で思い出しました。

■石）天皇皇后両陛下の即位３０年の記念式典がありました。みみちゃん絵本サロンでも、美智子皇后のお話をされて、２０年前に買った『橋をかける』（美智子）を読み直しました。たまたま、みみ先生が思い出させてくれたのですが、胸に響いたので、みなさんにもお伝えしたくて紹介します。

> どうかこれからも、これまでと同じく、本が子供の大切な友となり、助けとなること
> を信じ、子供達と本とを結ぶ IBBY の大切な仕事をお続け下さい。
> 子供達が、自分の中に、しっかりとした根を持つために
> 子供達が、喜びと想像の強い翼を持つために
> 子供達が、痛みを伴う愛を知るために
> そして、子供達が人生の複雑さに耐え、それぞれに与えられた人生を受け入れて生
> き、やがて一人一人、私共全てのふるさとであるこの地球で、平和の道具となってい
> くために。（p,26 抜粋）

■関）紹介しようと思って買ったのは、『日本再興戦略』（落合 陽一）３０代で大学の学長の補佐をされている方の本です。まだ途中です。

■西）初めての参加です。本は好きで２冊同時に呼んでいます。『本社は田舎に限る』（吉田 基晴）徳島県の IT 会社社長の自伝です。『坂の上の雲』（司馬遼太郎）は寝ながら読んでいるのでなかなか頭に入らないですね。また、２人の子供がいるのですが、毎日３０分～１時間よみきかせをしていて『ぐりとぐら』（なかがわ りえこ、おおむら ゆりこ）を読んでいます。

やぶさんより企画提案

やぶ）先日行われた地域クラウド交流会で賞金を得ました、何かイベントを企画して還元したいと思っています。年号が変わります。そこで、４月中に、平成元年から平成３０年まで、その年の新聞で一面を飾るようなニュースを選択して紹介するイベントを開催したいと思っています。
例えば、元年なら美空ひばりさん。それに合わせて音楽をやっている自分が「川の流れのように」をピアノで演奏する。参加者は元年の自分のエピソードも紹介する。新聞は原紙サイズ。

参加者からの意見

Q、このアイディアはどこから？
札幌の時計台でクラシックコンサートが行われていて、「平成が終わる」というコンセプトで平成の音楽が演奏されます。そこからヒントを得ました。

Q、新聞はどうやって集めるの？
図書館なら縮小版があるが、大きなものがいい。新聞社が過去分も販売している。

Q、時間はどのくらい？
１時間を予定している。２部制、シリーズで３回ぐらいあってもいい。
１年ごとのニュース３０個より、１０年単位での紹介の仕方もある。

Q、どの新聞社を使う？
全国紙より地元の千歳民報。協賛の依頼を行う。

Q、会場は？
まちライブラリーで行いたい。開けた場所で簡単に参加できるようにしたい。

Q、ヒットチャートから演奏曲を選ぶのは難しくないけど、エピソードを選ぶのが難しい。
災害が一番大きく掲載されますね。スポーツならオリンピックとか。
年末の重大ニュースをチェックするとか。明るいニュースは記憶に残りにくい。

Q、急ぎすぎるのはよくない
平成が終わった後でも、平成を振り返ろうでもいいと思う。一度に詰め込まなくてもいい。

Q、どれくらいの人が集まるイベントをイメージしている？
クラウド交流会の半分ぐらい

Q、楽器はピアノ？
サックスの友人もいるが、ピアノで。ワンフレーズはもったいないね。

Q、個人的には昭和の人間だから、昭和をやってほしい。
平成なら集まる人が限られてくるかも。昭和なら９０歳の人でも参加できる。
昭和に良い曲はたくさんある。歌詞がいいので、歌詞を映し出してもいい。
昭和の新聞まで広げると大変になる。縮小版でも十分。１００年シリーズもあり。
面白いエピソードもたくさん聞けそう。さくらも必要かも。

【夜の部】　まちライブラリーの取り組みを知ってもらう

■千歳を PR するのに、紹介できる媒体があまりない。「千歳の幸せ図鑑」は現場から発信しているので紹介しやすいですね。
★「千歳の幸せ図鑑」のダウンロードの方法について、QR コード、まちライブラリーや千歳市の HP などにもリンクを貼って発信しよう。
■科技大は知識（システム）はあるが、活用までできていない。まちライブラリーは活用できるネタや人がいる。互いにとってメリットになる。

■今日、新しい人が参加してくれてとてもうれしい。千歳市内で仕事をしている大半の方は、まちライブラリーのことをまだよく分かっていない。サポーター会議に参加するなど一歩踏み込んで話をして知り合えた人は、必ず、知り合いにも仕事の面でも、「まちライブラリーに寄ってみて」と行ってくれるようになる。
■市役所や大学のイベント会場にもなっているので、どんどん場所を使ってほしい。
■移住者に対する対応で困ることがあります。それは、ちょっとした悩みを相談できる人が移住したばかりの人にはいないということ。そういう時に、まちライブラリーを紹介できたらいいですね。
「とりあえず、まちライブラリーに半日いてごらん。コーヒーも飲めるし、車でも 3 時間は無料、
何かやってるから・・・」と声かけたい。

■福井県鯖江市では JK 課というサポーター会議のような話し合いの場があります。最初は市役所が思っている回答に持っていこうとすると「そんなの、ダサい」と言われたり・・・堂々巡りしながらアイディアをだしていくやり方です。
まちライブラリーが目指しているのもそれに近いかもしれません。サポーター会議の無駄さ。冒頭の本紹介など、会議のようにすすめていかないやりかたが大事なのです。色々な人がきて、色々な人の立場で話を聞いて、みんなで応援していく。それが、政策の決定では重要なやり方みたいですね。
まちライブラリーをやっていて思うのは、「まちづくりは、なぜこんなに上手くいかないか」「行政は、なぜこんなに役に立たないのか」「企業の企画プランニングは、なぜ外れるのか」ということ。計画が上手くいかないことを個人的には分かるのに、原因が別のところにあると考えてしまう。そろそろ、この方法自体に原因があると考えていかなければならない。
人間は合理的には動かない。感情で動くものだと最近感じている。調べてみると、経済学の世界でも、アダム・スミスが「神の見えざる手」と言っていますが、彼はもともと道徳の先生で、人間の感情をすくい上げていかないといけないと言っているのです。「The man of system」システムで物を考える人が一番よくないと言っています。自分の中に結論があって結果を出そうとしている人が危険だよと書いています。
■合理的じゃなくて、回り道しても、その時々に応じて、さぐりあいながら話し合う場を持ちたいなと思った。
■「私、ワークショップ嫌いなんです。」というのは、行政・主催者側が答えを用意している。結論に想定外の回答が出たら・・・。単なる報告書作成のためのワークショップとなっている。自分たち答えがあると思っていると、ワークショップは時間の無駄になってしまう。
■結局、地方創生は個別解しかない。一人の移住者を助けるというのを積み重ねていくしかない。
■行政は、起承転結、費用対効果を出さないと通らない。今までやったことがないことを机上で考えても分からない。目標は必要であったとしても、やってみてだめなら修正できるような形ならいいね。企業も同様。
■ルーブル美術館が費用対効果を求めて建設されていないように、実は、費用対効果がない部分に注目が集まっている。

園井さんのやってみたい話

■６月の JAL マラソンで雪だるまセットという企画を提案しました。白くてきれいな雪なら本州や台湾の人ならきっと興味をもってくれる。１００人が SNS で拡散してくれたら面白いことになる。
■走り終わってのアイシングにも利用できる。
■継続することは苦痛。新しいことは大変だけど、楽しい。まちライブラリーも１０年続いて変化がないと厳しいけど、新しいことに挑戦できる場となっている。
■嶋田忠さんの写真展、ヤマザキマリさんのコーナー、でんじろう先生みたいな空気砲、千歳タウンプラザでもやりたい事たくさんあります。
■空気砲などのイベントは航空学園の生徒に声をかけたところ反応よかったです。
■iPad を利用したイベント
■紙飛行機イベント

―会議を終えてー

昼の部・夜の部ともに初めての方が参加してくださいました。ありがとうございます。話し好きな私は、ついついまちライブラリーの取り組みを紹介したくなります。そして、参加者がどのような人なのか興味津々。お互いを知るということが、まちライブラリー@千歳タウンプラザのサポーター会議のやり方であり、目的なのだと改めて思いました。（久重）

―次回の開催―

３月２６日（火）　【昼の部】14:00~15:30【夜部】18:00～19:30
千歳を知ろう！「巣箱の図書館ってなあに？」同日 15:30~16:30